はじめに

利賀村では、夏の暑さが終わったかと思えば、秋になったとたんに涼しさを超えて一気に寒さがやってきました。家々では徐々にコタツやストーブを出し始め、田んぼは稲刈りを終え、畑も徐々に冬支度。山を見上げれば少しずつ葉っぱが秋の色へと色付きはじめ、足早に季節が進んでいることを感じる日々です。しかし留学センターでは秋を感じるのも束の間。およそ１か月後に迫った収穫祭に向けて準備が進んでいます。留学生には、日頃お世話になっている地域の方々にしっかりと感謝の気持ちと成長の姿を見て頂けるように、悔いの残らないよう準備を進めてもらいたいと思います。

さて、先日留学生を含めた利賀村の中学２・３年生はおよそ１週間の日程でギリシャのデルフィ市を訪問しました。全員無事に行って帰ってきたことを喜ぶと共に、参加した留学生から話を聞くと、やはり全くの異文化の土地でとても貴重な経験をしてきたのだなと嬉しくなりました。利賀村とギリシャ・デルフィ市は演劇を介した交流でやがて４０年近い繋がりがあるそうで、現在も２年に１度、利賀村の中学 2・3 年生を中心とした訪問団で交流をしています。小さな村なのに太く長い繋がり・交流が沢山ある。先人の方々が築いてきたこのたくさんの縁が利賀村の大きな魅力であり、留学生や我々にとっても大きな糧となるものなのだなと改めて感じる出来事でした。

長岡悟

収穫の秋…

【活動日程】

9／16　小学生キャンプ(～17日)
9／17　釣り
9／18　個人体験日
9／23　畑の作業
9／24　稲刈り
9／30　週末コース③
（～10月1日）
10／7　個人体験日
10／8　畑の作業、田の作業
10／9　個人体験日

〒939-2516　富山県南砺市利賀村坂上 18
南砺利賀みらい留学センター
TEL：0763-77-4103　／　FAX ： 0763-77-4037
MAIL：nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp
WEB：http://www.nanto-toga.com/

9/16～17　小学生キャンプ

小学生のキャンプ活動を河童の郷で行いました。今回のキャンプのテーマは「みんなで楽しく！」です。事前に何度か話し合いをし、食事の献立作りを進めていきました。

当日はとても良い天気で、空き時間には「鬼ごっこしよう！」「次はチームで別れてリレーしよう！」と次々と遊び、ご飯時には「俺かまど作るね。」「じゃあ私たち野菜切ってくるー！」と４人で声を掛け合いながら活動していました。計画から片付けまで「みんなで楽しく！」行うことができました。

10／17　釣り

小学生がキャンプに行っている間、中３生が小学生の為に飼っているニジマスを放流したり、予備の仕掛けを作ったりと準備を整えてくれたおかげで、キャンプの後に釣りの活動をすることができました。

まずは自分でできるように、仕掛けの作り方や竿への結び方を指導員から教わり、いざ川へ。鋭い日差しの下で２時間ほど粘りました。放流したニジマスは残念ながら釣り上げることはできませんでしたが、カジカや小さめの岩魚を数匹釣ることができました。

9/24　稲刈り

秋晴れの爽やかな空気の中で、稲刈りの活動を行いました。今回の作業も地元の子が数名参加してくれました。

今年は夏の終わりに一気に雑草が増え、最終的に稲は雑草に完敗してしまっていました。田んぼに出てきた子どもたちも、「どれが稲なんだ？！」「草取り頑張ったのに…」と驚きや悔しさを顔に滲ませながら作業を進めていきました。雑草を取るのに手間取りましたが、最後まで前向きに手作業での稲刈りをやり切りました。

私は、ほぼほぼ結束をしていました。途中から指がいたくなってましたが、謎の中毒性があり、気づいたら指がいたいのも気にならないくらい夢中で作業していました。結束したすぎて、いろんな人に「稲もってきて～」と言っていました。稲がさらに好きになれて嬉しかったです。（ゆづき）

日々のあれこれ♪♪

キャンプで暗闇体験☆

烏骨鶏がやってきた！

練習にも気合い入ってきました！

ストレッチや筋トレが流行中

週末コース③　デイキャンプ・稲刈り

主に南砺市内の子どもたちを対象にした週末コース３回目の活動を行いました。初日は秋の味覚探しとデイキャンプということで、むかごご飯を作るべく、百瀬地区に探しに行きました。くっつき虫を投げ合って遊びながら百瀬川沿いの遊歩道を歩いていると、たくさんのむかごを発見！その後外で火を起こして羽釜でご飯を炊いたり、豚汁を作ったりして夕食づくりをしました。

夜から天候が崩れてしまいましたが、翌朝には少し雨も弱まってきていたので、予定通り稲刈りの活動を行いました。すると段々と日が差してきて、「暑いー」「疲れたー！」といった声が挙がっていましたが、そういいながらも作業の手が止まることはありませんでした。

今年度最後の週末コースは２月に行う予定です。

みらい留学農事歴

9/23　夏野菜片付け
　　秋野菜間引き
9/24 稲刈り
10/8　畑の草とり
　　落穂拾い
　　稲刈り

【畑】９月 23 日は、トマトの苗や支柱を片付けました。「長いやつこっちにちょうだい」「金具はこっち！」と分解したトンネルや支柱を手際よく片付けていました。ナスやピーマンはまだまだとれるので、毎朝当番の人が慣れた様子で厨房へ運んでいます。また、カブやほうれん草などの間引きも行いました。10 月８日にはその周りの草取りも。今年は蒔くのが遅くなってしまい、なかなか大きくならないうちに寒くなってきてしまいましたが、少しずつの成長を見守っているところです。

【田んぼ】９月２４日の稲刈りの後、雑草が枯れたので１０月８日に刈り残した稲を刈ったり、落穂拾いをしたりしました。雑草が非常に多かったおかげで、残念ながら収量はかなり減ってしまいましたが、その分「あ、あそこにもまだある！」「向こうにもあったよ。」と一本一本の稲を大切に採っていました。

10 月８日に脱穀を行う予定でしたが、天候が悪く１週ずらして行うことにしました。

保護者だより

夏、帰省した翠がリビングでくつろいでいる。記憶との違和感で体の成長を確認する。一段と大きくなった。体だけではない。『もったいない、まだ使える』『この本が面白い』『これを作りたい』と、自分の思いや考えを話してくれるようになった。内面も成長しているようだ。京都での生活とは違い、利賀ではたくさんの人と関わり、経験し、学び、自ら考えて行動することが多いのだろう。豊かな自然の中で過ごし大勢でご飯を食べる。大人と混じり役割を与えてもらう。子供同士で計画し行動する。全てが彼の成長の糧となっている。子供の成長に環境は大切なのだと実感する。このような温かい里山に感謝。ただそうなると困ったことに親としてはもっと成長した姿を見てみたい。この秋の行事ではどんな姿を見せてくれるだろう。太鼓や踊りは去年よりも良いものを見ることができるのだろうか。次の帰省ではどんな話をしてくれるのだろう。期待しすぎてはダメだとわかっていながら欲望が湧いてくる。楽しみ。次、利賀村を訪れる時までますます妄想が膨らんでしまいそうだ。

この４か月での成長（？）

利賀に送りだしてから４か月、７月末に初の帰省をしてきました。少しは成長しているかな？と思いきや。早起きしてきたのは初日だけ。その後は漫画・おやつ三昧、遅寝・遅起き三昧のリビング散らかし放題。煽っても夏休みの宿題はやらず、母と姉の全面協力により、なんとか仕上げる。という、留学前とはなんら変わりない姿がそこにありました。思わず夫に「何にも変わらないねー」と愚痴る母。しかし夫からの返事は「そう？だいぶ自分のやりたいこととか、気持ちを言えるようになった気がするよ」。ほほう。父親と母親の距離感の違いでしょうか。言われてみれば、「ホームステイの時のほうが、一人暮らしのおかあさんだから優しくしなきゃって、ちょっと緊張しているよ」など話してくれている姿は、留学前よりもちょっぴり頼もしくなっているようにも思えました。すごくのんびり・ぼんやりな子なので、心配で心配で、留学前は何かと過保護になっていたように思います。娘から語られる利賀生活から、センタースタッフさんや、受け入れ家庭のお母さん、学校の先生方からとても暖かく接していただけているのがわかります。過保護な親から離れ、皆さんに温かく見守られる中で、のんびりながらも少しずつ「自分」を確立しているのかな。本当にのんびりさんなのでご迷惑おかけしていることと思いますが、残りの半年も引き続きよろしくお願い致します。

くま爺の つぶやき・・・

統括主幹　山本 光則

センター近くの一軒家に住んでいる。このところ夜になると体育館から太鼓の音が毎日のように聞こえてくる。休日などは少しの時間をみつけては誰かが太鼓を叩いている。強制はしていないがみんな「うまく叩けるように」と夢中になって取り組んでいる。みるみる上達する子どもたちとやる気を惹起させる指導員の姿をみて凄いなーと思う。私が三十歳頃には太鼓や民舞などなかった。それらのスキルが全くなく、あるのは自然遊びと農作業と山羊や鶏や兎を飼うことだった。鶏は知りあいの獣医さんからいただいたのだが何とひよこが百羽。箱に入れて電球であたため無事育て、ビニールハウスの骨組みで囲い放し飼いにして、卵は食べきれないので村の商店で販売してもらった。残飯を食べて卵を産み糞は堆肥に。

今年は春から鶏を飼いたいとあれこれと思案、子どもたちと小屋を準備、先日５羽の烏骨鶏がやってきた。卵をみてみんな大喜び。これから雪と寒さをどう克服するか腕のみせ所。